（R5.6.1発行）

# 宮城県林業普及活動情報

2023.4月号　No.179

## もくじ


| | |
|---|---|
| 各地の林業普及活動情報 | Ｐ２～６ |
| ○たけのこの出荷制限全面解除に向けた取組 | （大河原地方振興事務所） |
| ○キャンパス林から考える森林再生を目指して | （仙台地方振興事務所） |
| ○ハタケシメジ栽培講習会について | （北部地方振興事務所） |
| ○「苔玉・テラリウム教室」への支援 | （北部地方振興事務所 栗原地域事務所） |
| ○海岸防災林の管理育成の検討 | （東部地方振興事務所） |
| ○法面工事での木製スペーサー設置の検討 | （東部地方振興事務所） |
| ○合板用県産材に関する検討会議 | （東部地方振興事務所） |
| ○原木しいたけ栽培見学会支援 | （東部地方振興事務所 登米地域事務所） |
| ○松くい虫の防除の推進に向けた打合せ | （気仙沼地方振興事務所） |
| ○スタートアップ研修の開催 | （林業技術総合センター） |
| ○市町村林務担当職員研修会の開催 | （林業技術総合センター） |

## たけのこの出荷制限全面解除に向けた取組

**大河原地方振興事務所**

【28日（金）】

出荷制限解除となっている白石市と丸森町内５地区の「たけのこ」について、生産者及び市町と連携し、適時適切に出荷前及び定期検査を実施し、安心安全なたけのこを出荷することができました。

また、丸森町の３地区における出荷制限の全面解除に向け、生産者との情報交換を行いながら、たけのこ採取とモニタリング調査を実施しました。

今後、検体の放射能濃度結果を踏まえ、出荷制限の全面解除に向け、関係機関との協議や、生産者に対し各種情報提供を行うなど、丸森町と連携して支援していきます。

【たけのこ掘取の様子】

## キャンパス林から考える森林再生を目指して

**仙台地方振興事務所**

【27日（木）】

公立大学法人宮城大学の大和キャンパス内における間伐活動が３年目を迎えました。約60年生のスギ林は，これまで一度も森林整備が行われていませんでした。

今回は，同大学の景観と再生研究室に配属となった３年生10名を対象に，林業普及指導員による①間伐をする意味②森林法に基づく手続き③手鋸の使い方や作業の安全確保，の講義のあと，県森林インストラクターの指導のもと，手鋸による間伐を行いました。

間伐を行ってきた林分は少しずつですが光が差し込む林層になってきています。

大学生からは，「森の整備は地球環境への貢献に繋がる。」，「森林は国連の持続可能な開発目標（SDGs）と関わりが強く，今後森林の循環利用について学びたい。」といった感想が寄せられました。

【手鋸によるキャンパス林の間伐】

## ハタケシメジ栽培講習会について

**北部地方振興事務所**

【13日(木)】

管内の産地直売所である，「あ・ら・伊達な道の駅（大崎市岩出山)」から，生産者を対象とした標記講習会を開催して欲しい旨の要請があったことから，「簡易施設での栽培技術指導」講習会を，日程調整のうえ開催することとしました。

直売所では，野菜，きのこ及び山菜の通年販売を想定しており，特に冬場の特産物の品薄解消としてハタケシメジ栽培に着目したとのことでした。

簡易施設栽培は，比較的労力を要しないことから，幅広い生産者の確保とともに栽培技術の習得と生産基盤構築を目指します。

【上：ﾊﾀｹｼﾒｼﾞ，下：簡易施設栽培のｲﾒｰｼﾞ】

## 「苔玉・テラリウム教室」への支援

**北部地方振興事務所 栗原地域事務所**

【15日(土)，21日(金)，22日(土)】

産地化を目指している「くりはらの苔」の魅力を発信するため，これまで緑化関連のイベント等に際し，苔玉及びテラリウム教室等を企画・支援してきたことから，４年ぶりの開催となる「栗駒高原森林まつり」における苔玉及びテラリウム教室において参加者の作品製作を支援しました。

一方，３年ぶりに開催された「花と緑のココロ博」の出店要請では，イベント等で実績のある栗駒高原森林組合及び一迫林業研究会の出店(「くりはらde苔ビジネス実践隊」)をコーディネートしました。

両イベントとも，事前のＰＲが奏功し，参加希望の受付開始とともに行列ができ，花と緑のココロ博では，急遽，開催回数と一回当たりの参加人数を増すとともに，ホームセンターから資材を補充するなどし，苔に対する潜在的な関心の高さを実感することができました。また，苔の購入相談も複数寄せられたことから，苔の販売用カタログの作成に取りかかり，大口実需者である県内外の造園協会等へＰＲを図る等，苔ビジネスが栗原地域の新たな産業となるよう引続き支援していきます。

【花と緑のココロ博の様子（苔玉教室)】

【同上（苔テラリウム教室】

## 海岸防災林の管理育成の検討

**東部地方振興事務所**

【６(木)】

震災復興を目的に造成した海岸防災林のクロマツに松枯れ症状が見られたことから，これまで育成作業を担ってきた森林組合担当者とともに現地を確認し，今後の管理について意見交換を行いました。

クロマツは，植栽から約7年が経過したことで，樹高が４～５ｍに達しており，過密が原因と推察されたので，適切な保育等，手入れが必要であると判断しました。

今後は，この情報を内部で共有し，具体的な措置を検討することとしました。

【現地検討の状況】

## 法面工事での木製スペーサー設置の検討

**東部地方振興事務所**

【14日(金)】

地域産木材の需要拡大に向けた取組として，治山工事の簡易法枠工施工現場において木製スペーサーの試験施工と意見交換を行いました。

今回は試作品として製作した３種類のスペーサー（スギ材製）を設置し，施工時間を計測したほか，施工者からは，「従来製品と比較して違和感がない。」「現場サイドとしては環境に配慮したものを使用したい。」などの意見が出されました。今後も普及に向けた取り組みを行っていきます。

【設置作業の状況】

## 合板用県産材に関する検討会議

**東部地方振興事務所**

【27日(木)】

合板原木の安定的な需給調整を目的に，宮城北部流域森林・林業活性化センター石巻支部との協力のもと，需給関係者による検討会が開催されました。

会議では，今後の見通し等ついて意見交換が行われ，前年度から続く合板需要の低迷や原木流通の滞留が話題の中心となりました。特に供給者側からは他県産材の割合が高まっていることから，当県産材の割合を上げることや，素材流通の円滑化に係る支援の要望がありました。

なお，今後の需給見通しは，未だに合板需要の回復が見えないため，引き続き関係者が連携を深め，需給調整に取り組むことになり

【意見交換の状況】

ました。

## 原木しいたけ栽培見学会支援

**東部地方振興事務所 登米地域事務所**

【23日(日)】

原木しいたけ生産者と消費者の交流を目的として行われた見学会の実施を支援しました。原木しいたけの栽培方法や放射性物質汚染対策の実施による安全・安心な林産物の流通確保について説明しました。

生産者による栽培方法の説明とともに、収穫体験や試食により、生産者と消費者が交流することができました。子供を含め多数の消費者が参加し、原木しいたけの歯ごたえや味、香りなどを楽しむと同時に、原木の確保や林床栽培などの森林との関わりについても理解を得ることができました。

【放射性物質対策説明の様子】

## 松くい虫の防除の推進に向けた打合せ

**気仙沼地方振興事務所**

【11日(火)】

松くい虫被害の太平洋側の先端地域である気仙沼市では，松くい虫の国営委託防除事業を実施しています。

例年，被害木調査の実施に当たっては，職員の目視により実施してきましたが，対象区域の被害状況の事前確認をドローンで行うことにより被害木調査の省力化を行いました。

また得られた被害状況写真データを気仙沼市と共有するとともに，被害調査漏れが発生しないよう双方の防除実施予定箇所の情報共有を図りました。

今後も，県及び市が協力の下で松くい虫の適切な防除が実施されるよう取り組んでいきます。

【打合せ状況】

## スタートアップ研修の開催

**林業技術総合センター**

【14日（金）】

みやぎ森林・林業未来創造カレッジが主催する標記研修（林業一般）が当所で開催されたことから，現場作業に必要となる刈払機とチェーンソーの知識と技術，林業の基礎知識を講義しました。

年度当初に短時間で幅広い知識を伝えるために，①「造林から収穫までの基礎知識」，②「木材の生産・利用・流通・販売の基礎知識」，③「宮城の森林・林業の現状と課題，政策の動向」の３部構成で講義しました。また，森林踏査に活用可能なスマホアプリを，実際に敷地を歩きながら実習いただき利便性を実感してもらいました。

【スマホアプリの実習】

## 市町村林務担当職員研修会の開催

**林業技術総合センター**

【26日（水）】

標記研修会を，新たに林務担当となられた方々を対象に当所で開催しました。研修内容は，「森林・林業用語の基礎知識」，「宮城の森林・林業の現状と政策・施策の概要」，「森林経営管理制度」，「市町村森林整備計画と伐採届出制度」，「森林経営計画」です。

業務に必要な知識と技術を早期に身につけていただくために年度当初の開催としました。

研修生から，市町村ごとの参加人数の増員や用語の基礎知識の時間枠について要望がありましたので，改善に向けて検討中です。

【講義の様子】